

今だからこそ

災害に備えて

大切な生命を守るための備えは万全ですか？



▶豪雨により寸断された道路（谷内区）

■避難が必要な状況



大雨・台風



土砂崩れ



地震

■家庭や地域で災害に対する備えを確認

平成28年4月の熊本地震、同6月の1時間当たりの総雨量が150ミリの豪雨災害では、町内でも家屋の倒壊や浸水、土砂災害など多くの被害が発生しました。

これからの季節は、大雨や洪水、土砂災害などに特に注意する必要があります。災害に備えて次の3つの

ポイントを確認しましょう。

- 家族全員で避難場所を確認しよう
- 台風の際には事前に家の周りの確認をしよう

●非常持出品を準備しよう

災害は、いつでもどこで、どのような形で発生するか予測がつかないものです。日ごろから家庭や地域防災に対する意識を高め、しっかりと準備しておくことが大切な生命を守ることにつながります。

■情報収集のための手段① ～最新の情報をいち早く確認～

●熊本県防災情報メールサービス

県が配信する防災情報サービスです。気象注意報・警報、河川水位情報、避難勧告などをメールでお知らせします。

entry@anshin.pref.kumamoto.jp

に空メールを送信して、事前登録してください。



●熊本県統合型防災情報システム

県内の大雨などの気象情報や土砂災害警戒情報や河川の水位状況などをリアルタイムで確認できます。

▶熊本県統合型防災情報システム

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp>



●大雨警戒（土砂災害）の危険度分布

気象庁ホームページでは、土砂災害発生の危険度の高まりを地図上に表示します。

▶大雨警戒（土砂災害）の危険度分布

<http://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>



■町から発令される避難情報と発令時にとるべき行動

災害発生のおそれがある場合には、避難に関する情報を発令しますので適切な行動をとりましょう

警戒レベル	避難情報	発令時の状況ととるべき行動
警戒レベル 5	(災害発生情報)	<p>すでに災害が発生しており、人的被害の危険性が非常に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な避難が困難な場合があります。 命を守るための最善の行動をとってください。
警戒レベル 4 全員避難	避難勧告 避難指示 (緊急)	<p>災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難指示が出されるまでに避難を完了させましょう。 道路の冠水や土砂崩れなどにより外出することが困難となっているおそれがあります。命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な部屋などに移動してください。
警戒レベル 3 高齢者などは避難	避難準備・ 高齢者等避難開始	<p>大雨や洪水の警報が発表され、河川の急激な水位上昇のおそれがある状況</p> <ul style="list-style-type: none"> いつでも避難ができるよう準備をしましょう。 土砂災害の危険性がある区域の人や避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など）は避難を開始しましょう。
警戒レベル 1 または 2	自主避難	<p>大雨や洪水の注意報が発表され、災害に対する注意が高まっている状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップで災害の危険性のある区域や避難経路を確認して、避難に備えましょう。 状況により危険を感じた場合は友人宅などに自主避難を始めましょう。

生命を守るために情報収集を
気象庁が発表する注意情報や警報などは、災害による被害を最小限に抑えるために発表されます。テレビやラジオ、町、消防から発信される情報を常に収集・精査して、デマ情報などに惑わされないよう注意することが重要です。警報や勧告などがなくても、常に身の回りの状況に気を配り、身の危険を感じたときには、明るうちに早めの避難を心掛けましょう。

■町が発令する避難指示・勧告
台風や大雨などにより災害発生のおそれがある場合には、住民の皆さんを災害から保護し被害の拡大を防止するため、町では避難に関する情報を発令します。
避難区分は、高齢者など避難に時間のかかる方に早めの避難を促す「避難準備・高齢者等避難開始」、通常の避難行動ができる者に避難を促す「避難勧告」、危険が切迫し早急な避難を促す「避難指示（緊急）」の3段階に分類され、さらに自らの判断で自主的に避難をする「自主避難」があります。避難区分については、気象状態や河川の推移などにより判断され、町公式ウェブサイトや防災無線による一斉通報、携帯電話などの「エリアメール」、警鐘およびサイレンの吹鳴などで伝達されます。避難をする場合には、慌てずに回りの状況を見て行動しましょう。

■情報収集のための手段② ～いざというときは早めの避難を～

●洪水情報の配信エリア拡大

国土交通省では、平成30年5月から国が管理する緑川や白川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、対象の地域にいる人に氾濫の危険をお知らせする情報が緊急速報メールを活用し自動で配信されるようになりました。

●甲佐町防災マップ

町では、「甲佐町防災マップ」を整備しました。指定緊急避難場所や土砂災害警戒区域などを確認できます。

▶甲佐町防災マップ

<https://apps01.chklab.com/LG434442/CommonMap/Home/Policy/>



▲甲佐町防災マップ

災害に備えて

非常持ち出し品や避難所を確認しよう

■災害に備えて用意する非常持出品

●いつでも避難できるように準備しておくもの

- | | |
|------|---|
| 食料品 | <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 非常用食品（乾パンや缶詰など長期保存できるもの） |
| 避難用具 | <input type="checkbox"/> 防災ずきんやヘルメット <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ
<input type="checkbox"/> 予備電池 <input type="checkbox"/> 笛やブザー <input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器含む）
<input type="checkbox"/> 万能ナイフ <input type="checkbox"/> 手袋 |
| 貴重品 | <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 預金通帳・印かん <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 身分証明書 |
| 衛生用具 | <input type="checkbox"/> 救急セット <input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> アルコール消毒液
<input type="checkbox"/> トイレットペーパー <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 着替え
<input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 缶切り <input type="checkbox"/> 粉ミルク・紙おむつ |
| その他 | <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> カイロ <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> マッチやライター
<input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 食品用ラップフィルム <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 毛布
<input type="checkbox"/> その他自分の生活に欠かせないもの |

●復旧までの3日間をしのぐ備蓄品

- | | |
|-----|--|
| 飲料水 | <input type="checkbox"/> ペットボトル（1人1日3ℓ） <input type="checkbox"/> 貯水した防災タンク |
| 貴重品 | <input type="checkbox"/> 米 <input type="checkbox"/> 缶詰やレトルト食品 <input type="checkbox"/> 梅干しや調味料
<input type="checkbox"/> フリーズドライ食品・チョコレート・あめなど |
| 燃料 | <input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> ガスコンロ <input type="checkbox"/> 固形燃料 |
| その他 | <input type="checkbox"/> 生活用水 <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋 <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> 調理用具
<input type="checkbox"/> バケツ <input type="checkbox"/> アウトドア用品 <input type="checkbox"/> ポリタンク |

■日ごろから防災意識を持って備えておくことが大切です

平成28年の熊本地震の際には、土砂災害により水道・電気などのライフラインが寸断されるとともに、道路や河川などが土砂災害などにより通行止めとなり流通が途絶え孤立する地域もありました。

大規模な災害時は、長期の停電や断水が発生し、支援物資の到着も遅れてしまう可能性もあるため、各家庭で3日間をしのぐ必要最低限の水や食料などを備えておくことが重要です。避難指示などの発令のため、すぐに自宅に帰れず避難所などでの長期の生活を余儀なくされる場合もあります。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品などを備えるようにしましょう。

食料品などのほかに、着替えや常備薬など生活に必要なものをあらかじめリュックサックに詰めておき、災害が起きたときにいつでも持ち出せるようにしておきましょう。ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

■自主防災組織で高める防災力



▲防災訓練として地域の防災マップを作成する下豊内地域の住民ら

～地域で災害に対する備えを～

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の目的を持って、地域の人たちが自発的に結成する防災のための組織です。

災害発生時に消防団などが現場に到着するまでの間、地域で協力しながら人命救助や消火活動をし

て、被害を最小限にとどめるために作られています。

この自主防災組織は災害発生時に最も頼りになる地域住民同士の助け合いを組織化したものです。

皆さんの地区でも自主防災組織を設立して、地域の防災力を高めませんか。



くらし安全推進室
佐々木 善平 室長

新型コロナウイルス 予防対策の徹底を

毎年6月の梅雨時期から10月にかけては、台風や集中豪雨などにより、低い土地での浸水や河川の増水、土砂災害が発生しやすい時期です。

昨年の台風15号および19号では、東日本を中心に記録的な大雨となり甚大な被害をもたらしました。

本格的な出水期を迎えるにあたり、新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を防止するため、町では十分な換気やスペースの確保、消毒の徹底など避難所の衛生環境の確保に努めてまいります。

皆さんも避難所への密集を避けるため、自宅のより安全な場所への移動や安全な親戚・知人宅・公民館などへの避難も検討していただきますようお願いいたします。

■町内の指定緊急避難場所



詳細はこちらをご確認ください



指定緊急避難場所（所在地）

① 宮内地区社会教育センター (甲佐町小鹿358)	⑥ 甲佐中学校 (甲佐町中横田300)	⑪ 白旗福祉ふれあいセンター (甲佐町白旗216-2)
② 町総合保健福祉センター (甲佐町豊内619) W	⑦ 龍野小学校 (甲佐町上早川1220)	⑫ 上益城農業協同組合本所 (甲佐町白旗543-1)
③ 甲佐小学校 (甲佐町豊内613-1)	⑧ 龍野福祉ふれあいセンター (甲佐町上早川1334)	⑬ 乙女小学校 (甲佐町津志田3073)
④ 町農業研修センター「ろくじ館」 (甲佐町豊内719-2) W	⑨ 町民センター (甲佐町糸田9) W	⑭ 乙女高齢者福祉センター (甲佐町津志田3073)
⑤ 甲佐地区都市防災公園 (甲佐町豊内785)	⑩ 白旗小学校 (甲佐町白旗50)	W …Wi-Fi 設置場所

※ 災害の種類や規模に応じて開設します。町公式ウェブサイトなどで最新の情報をご確認ください。

■避難場所をあらかじめ確認し もしもの時に備えましょう

災害が発生する危険が高まって避難しなければならぬ場合は、最寄りの避難場所に避難します。

熊本地震のように夜間避難をする場合や、勤務先から直接避難する場合も考えられます。あらかじめ避難場所や経路を確認しておき、いざというときにすぐ避難ができる状態を考えておきましょう。

大規模な災害が発生したときに、被害の拡大を最小限にするためには、自分自身の備えや自主防災組織など地域で防災活動に普段から取り組んでおくことが重要です。

災害に備えて今自分たちでできることを考えることが、自分の生命や大切な人の生命を守ることに繋がります。

▼お問い合わせ先

096-234-1167
町くらし安全推進室

■避難所における感染症対策

災害発生時には、断水により手洗いや消毒ができない可能性もあります。避難所などの密集した環境下での集団生活では、新型コロナウイルス感染症だけでなくノロウイルスなどの感染リスクが高まります。

早めの避難は大切ですが、感染症の拡大防止の観点から、避難所への

～避難所での注意事項の確認を～

密集を避けるため、親戚や知人宅への避難についても事前の検討・相談をお願いします。

また、避難する際は次の対策を心掛けましょう。

①避難所へ向かう前に自身の体調を把握しましょう。発熱や咳などの症状がある場合は、事前にかかり

つけ医や病院などに相談しましょう。

②マスクの着用や咳エチケット、こまめな手指消毒などの基本的な対策を徹底しましょう。